

## 避難訓練 評価報告書

作成日：2015年12月11日  
作成者：学校法人木の実学園  
木の実幼稚園  
理事長 中矢謙一郎

<今後について>

<総評>

今年で4回目となるこの度の避難訓練も、避難先である垣生中学校はもとより、垣生地区の自主防災会連合会や交通安全協議会、垣生駐在所より御理解と御協力を賜れたおかげで執り行えたものであり、地域の方々へ深く感謝申し上げます。

今年度も垣生中学校の先生方と中学2年生の皆さんのご協力により、中学2年生が年少児（3歳児、104名）と年中児（4歳児の一部）を校舎4階の多目的スペースまで避難させるという合同避難訓練の形を取れ、子どもたちにとって「津波から身を守る」とはどういう行動なのかを体感する大変貴重な機会となりました。

避難訓練は、上述の各会の方々が生徒の避難ルートの要所に立って頂けたおかげで、今年も事故なく全参加園児が無事に垣生中学校へ到着致しました。また、避難にかかる時間は、昨年比で僅かな遅れがあったものの、平時の平均的な避難時間がどの程度かを把握するのに、重要なデータを加えられました。

<記録①：避難開始から垣生中学校到達までに要した時間>

平成24年度： 先頭の到着 ⇒ 41分 最後尾の到着 ⇒ 50分

平成25年度： 先頭の到着 ⇒ 21分 最後尾の到着 ⇒ 26分

平成26年度： 先頭の到着 ⇒ 24分 最後尾の到着 ⇒ 28分

平成27年度： 先頭の到着 ⇒ 24分 最後尾の到着 ⇒ 30分

避難開始から先頭到着までの平均時間 ⇒ 27分30秒

避難開始から最後尾到着までの平均時間 ⇒ 33分30秒

・避難時の隊列の組み方は、昨年度の改善の通り「年長（5歳児）と年少（3歳児）がペアになることが有効であり、この隊列を定型として維持します。

・教職員反省会で出されたアイデアですが、隊列の組み方について来年度に試してみたいことは、「隊列を大きな二つのグループに分割して避難する」ことです。「隊列」が長いと、先頭はゆっくり歩行していても途中で所々発生する小さな遅れの蓄積により、最後尾付近は早歩きか、時には駆け足のように進まなければ隊列を維持できませんでした。そこで、(どの程度の効果があるかは実行するまで不明ながら)「引率者」という先頭で進む教職員を1名から2名に増やし、中程度の隊列を2グループつくり、「小さな遅れの蓄積」を和らげて「安全に歩行する」として「速やかに避難する」ことのバランスをとれるかどうか試すことにします。

・中学生に手を握って頂いているおかげで、年少児でも途中で足が止まることなく高いところへ避難するができました。やはり、この行為そのものが「避難行動」の体感であり、幼子にとっては言葉の説明よりも遥かに記憶に残る体験になったと感じました。中学校にご迷惑のかからない年度においては、これからも是非継続をお願いできると幸いです。

・南海トラフ大地震の際に発生する津波により、瀬戸内の松山地方で水位の上昇が始まるまでに2時間強の時間があるとされています。東日本大震災の際に大変短い時間で津波が到達した地区地域であっても、命を落とした人がゼロの場所もありました。この事実を踏まえ、訓練の結果に満足せず、学校全体の習慣および約束事として「いざという時の行動」を明確にすべく、今後も訓練を継続していきたいと考えております。

(以上)